

令和2年度版(2020年度版)『小学算数』 年間指導計画案（4年）

学校の授業以外の場での学習が可能と 考えられる学習活動を考慮した詳細版

本資料は、令和2年度版教科書『小学算数』に基づいて、学校での授業と学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学習指導計画案を示したものです。学校の授業以外の場において取り組む学習活動をできるだけ多く取り入れる場合を想定して示した一例ですので、地域や学校の状況に合わせて、適宜、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を増減していただくなどしてご活用ください。

■本資料の見方

本資料では、①習熟や定着のための確認ページ、②既習内容の復習ページ、③学習内容の日常生活への活用ページを中心に、「学校の授業以外の場での学習が可能と考えられる教材・学習活動」と位置づけ、表の右端の列に示しています。

1 大きい数【千万より大きい数を表そう】（上P.10～20）

4月中旬【7時間】

【単元の目標】

・億や兆の単位を知り、十進位取り記数法についての理解を深め、数のまとまりに着目し、大きい数の大きさの比べ方や表し方について統合的にとらえるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

学校での授業と学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学校での授業時間を示しています。

6	○3位数×3位数の筆算の仕方を理解し、計算することができる。 ○末尾に0がある数の乗法の簡単な筆算の仕方を考える。	・ 345×187 、 279×403 の計算を、既習事項をもとに考える。 ・ 2800×320 の計算の仕方の簡単な方法を考える。
学習のまとめ 1時間（0時間）		
7	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.20)に取り組む。 ・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ふたごチャレンジ」(P.138)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。	

学校の授業以外の場において取り組む学習活動には、赤いアミを施すとともに、取り扱う際の指導上の留意事項などを示しています。

※本資料で示した各単元の学習活動、配当時数などは、今後公開される各種情報によって、変更となる可能性があります。ご了承ください。

『小学算数』 4年 年間指導計画（詳細案）

1 大きい数〔千万より大きい数を表そう〕（上P.10～20）

4月中旬〔7時間〕 **〔6時間〕**

【単元の目標】

- 億や兆の単位を知り、十進位取り記数法についての理解を深め、数のまとまりに着目し、大きい数の大きさの比べ方や表し方について統合的にとらえるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…億や兆の単位について知り、4桁ごとに新しい単位が用いられることを理解するとともに、兆までの数をよんだり、表したりすることができる。

思・判・表…4桁で区切るなど単位のまとまりを考えて大きい数をよんだり、比べたりするとともに、これまでに学んだ一、十、百、千の繰り返しと統合的にとらえて考えている。

態 度…十進位取り記数法によって、10個の数字でどのような大きい数でも表すことができるよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.9)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 数の表し方 (P.10～15) 3時間			
1	○億の位があることを知り、千億の位までの数のよみ方や表し方、構成を千万の位までの位取りのしくみをもとに考える。	<ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の人口のよみ方を考える。 日本の人口のよみ方を調べることを通して、千万より大きい数の表し方を調べる。 億の単位とその表し方を知る。 	
2	○兆の位があることを知り、千兆の位までの数のよみ方や表し方、十進位取り記数法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 福岡県の予算のよみ方を調べることを通して、千億より大きい数の表し方を調べる。 兆の単位とその表し方を知る。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○数直線をもとに、大きい数の系列を理解し、大小比較をすることができる。 ○大きい数を加法的・乗法的にとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線上の数のよみ方を調べ、千兆の位までの数の系列、大小関係を調べる。 3兆5600億をいろいろな見方で表すことを通して、千兆の位までの数の加法的構造、乗法的構造を調べる。 	
2 数のしくみ (P.16～17) 2時間			
4	○十進数のしくみをもとにして、10倍、100倍、1/10にした数について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 38億を10倍、100倍した数、1/10にした数の表し方を調べる。 	
5	○整数は、どんな大きい数でも0から9までの数字を使って表せることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 0から9までの数字を使って、10桁の整数をつくる。 	

3 大きい数のかけ算 (P. 18~19)		1 時間	
6	○3位数×3位数の筆算の仕方を理解し、計算することができる。 ○末尾に0がある数の乗法の簡単な筆算の仕方を考える。	・ 345×187 , 279×403 の計算を、既習事項をもとに考える。 ・ 2800×320 の計算の仕方の簡単な方法を考える。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
7	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 20)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ぐっとチャレンジ」(P. 138)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

2 わり算(1) [わり算のしかたをくふうしよう] (上P. 22~38)

4月下旬~5月中旬 [11時間] **[9時間]**

【単元の目標】

- ・除数が1位数で、被除数が2, 3位数の計算の仕方を理解し、筆算で計算する技能を身につけ、数量の関係に着目して、計算の仕方を考え説明するとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…これまでに学習した基本的な計算をもとに、除数が1位数で、被乗数が2, 3位数の計算の仕方を理解し、それらの計算が筆算でできる。

思・判・表…これまでに学習した基本的な計算をもとに、計算の仕方を図や式、ことばなどで考え説明している。

態 度…これまでに学習した基本的な計算を活用し、よりよい方法で解決することのよさを感じている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 21)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
単元アプローチ (P. 22) 1時間 (0時間)			
1	○いろいろな場面をわり算で表し、計算できるかどうかを考える。	・さし絵を見ながら、既習の除法の計算を振り返る。	・P. 22の内容に取り組み、これまでに学習したわり算について振り返らせ、今後の学習への見通しを持たせておく。
1 2けたの数をわる計算 (P. 23~29) 4時間			
2	○ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数}) = (2\text{位数})$ (あまりなし)の計算の仕方を考える。	・ $72 \div 3$ の計算の仕方を考える。	
3	○ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の筆算の仕方を考える。	・ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ (あまりなし)の筆算による仕方をまとめる。	
4	○ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ (あまりありで、各位ともわり切れない場合)の計算ができる。	・ $93 \div 4$ の計算の仕方を考える。 ・「和」「差」「積」「商」という用語を知る。	
5	○ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ (あまりありで、十の位がわり切れる場合) (あまりありで、九九1回適用の場合)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の派生型の筆算による仕方を考える。 例 $81 \div 2$, $47 \div 7$	
2 3けたの数をわる計算 (P. 30~35) 4時間			
6	○ $(3\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の計算の仕方を考える。	・ $600 \div 3$ の計算の仕方を考える。 ・ $120 \div 6$ の計算の仕方を考える。	

7	○(3位数)÷(1位数)=(3位数)(あまりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・854÷3の筆算の仕方を考える。 ・(3位数)÷(1位数)の筆算による仕方をまとめる。	
8	○(3位数)÷(1位数)(あまりあり、空位ありの場合)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・(3位数)÷(1位数)=(3位数)の派生型の筆算による仕方を考える。 例 843÷6 835÷4 905÷3 803÷4	
9	○(3位数)÷(1位数)=(2位数)(首位に商が立たない場合)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・258÷3の筆算の仕方を考える。 ・(3位数)÷(1位数)=(2位数)の筆算による仕方をまとめる。	
※	「よみとろう あらわそう」(P.152)で、整数の除法のテープ数直線図のよみ方・かき方を確認する。		
3 暗算 (P.36) 1時間			
10	○(2, 3位数)÷(1位数)の暗算ができる。	・(2, 3位数)÷(1位数)の暗算の仕方を考える。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	○「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P.37)で、学習内容をより確かなものにする。		
11	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.38)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ぐっとチャレンジ」(P.139)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

3 折れ線グラフと表〔グラフや表に表そう〕 (上P.40~58)

5月中旬~6月上旬 [14時間] **[11時間]**

【単元の目標】

- 折れ線グラフのよみ方、かき方、資料を2つの観点から分類整理して表に表す方法や表から特徴をよみとる方法を理解し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択し、その結論を考察するとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…折れ線グラフをよんだり、かいたりすることや、資料を2つの観点から分類整理して表に表したり、表から特徴をよみとったりすることができる。

思・判・表…目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目し、表やグラフに的確に表現し、解決の過程や結果を多面的にとらえ考察している。

態 度…グラフや表から変化の特徴や傾向、資料を目的に応じた観点で分類整理してよみとったり、変化のようすや分類整理をグラフや表に表したりすることのよさを振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.39)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
単元アプローチ (P.40) 1時間			
1	○気温の変化のようすについて関心を持つ。	・気温の変わり方が見たいときにはどのようにすればよいか考える。	・P.18の棒グラフを見て、わかったことや思ったことをノートにまとめさせる。
1 変わり方を表すグラフ (P.41~48) 5時間			
2	○折れ線グラフの用語と意味を知り、グラフをよむことができる。	・変わり方の表し方を考える。 ・「折れ線グラフ」の意味を知り、その見方を調べる。	
3	○折れ線グラフの線の傾きと変わり方の関係について考える。	・折れ線グラフを見て、折れ線の傾きと変化の度合いの関係を調べる。	

4	○2つの折れ線グラフを比較して、変化の特徴や傾向について考える。	・2つの折れ線グラフを比べ、変わり方を調べる。	
5	○折れ線グラフの目盛りの取り方と、折れ線の傾き具合との関係をとらえることができる。	・折れ線グラフの目盛りの取り方と傾きの関係を調べる。 ・目盛りに波線を用いた折れ線グラフの表し方を知る。	
6	○2つの数量の変化のようすを折れ線グラフと棒グラフからよみとることができる。	・折れ線グラフと棒グラフをあわせたグラフをよみ、わかったことを発表する。	
2 折れ線グラフのかき方 (P. 49~50) 2時間			
7	○折れ線グラフのかき方を理解し、グラフをかくことができる。	・折れ線グラフのかき方を知る。	
8	○波線を用いた折れ線グラフのかき方を理解し、グラフをかくことができる。	・目盛りに波線を用いて折れ線グラフをかく。	
3 整理のしかた (P. 51~57) 5時間 (3時間)			
9 ・ 10	○資料を1つの観点から分類整理し、表にまとめる方法を理解する。 ○資料を2つの観点から、落ちや重なりがないように分類整理し、2次元の表にまとめることができる。	・けが調べの資料について、1つの観点から分類整理する。 ・けが調べの資料について、2つの観点から分類整理する。	・P. 51 の内容に取り組み、これまでに学習した1次元の表について振り返らせ、今後の学習への見通しを持たせておく。授業では、2次元の表にまとめることに重点を置くことにより、 <u>1時間扱いとする。</u>
11	○資料を分類整理するときに、分類の観点や項目の立て方を考える。	・図書館の利用調べの資料について、2つの観点から分類整理する。	
12 ・ 13	○2つのグラフを比べて、判断したことを考察し、より適切なグラフにつくりかえて考察を深める。	【Hello! Math】 ・2つの気温の変化を表すグラフを比べて、判断したことを考察し、より適切なグラフにつくりかえて考察する。	・調べ活動に取り組み、表やグラフにまとめさせる。授業では、2つのグラフを比較し、より適切なグラフについて話し合う活動に重点を置くことにより、 <u>1時間扱いとする。</u>
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
14	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 58) に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ぐっとチャレンジ」(P. 140) は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

4 角と角度〔角の大きさをはかろう〕 (上P. 60~70)

6月上旬~6月中旬 [9時間] **[8時間]**

【単元の目標】

- ・角の大きさを回転の大きさとしてとらえ、その単位と測定の意味について理解し、図形としての角の大きさを柔軟に表現するとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技	…角の単位「度(°)」を理解し、分度器を用いて角の大きさをはかったり、角をかいたりすることができる。
思・判・表	…図形としての角の大きさに着目して、角の大きさを柔軟に表したり、図形を考察したりしている。
態 度	…身の回りからいろいろな角を見つけ出し、角の大きさを調べたり、比較したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 59) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		

1 回転の角 (P. 60~61) 1時間			
1	○単元アプローチ (P. 60) ・円と正方形を重ねて、いろいろな大きさの角をつくる。		
	○直角や任意の角を単位として角の大きさを考えるを通して、回転量としての角の概念を理解する。	・半直線が回転してできる角の大きさについて考える。 ・角の大きさを、直角を単位として表す。	
2 角の大きさのはかり方 (P. 62~66) 5時間			
2	○角度を表す単位(°)を知り、分度器の構造と目盛りのよみ方を理解するとともに、分度器を用いて角度をはかることができる。	・分度器の構造を調べる。 ・角度を表す単位(°)を知る。 ・分度器を用いた角のはかり方をまとめる。	・可能であれば、デジタルコンテンツを活用し、角度のはかり方を確認させることにより、1時間扱いとすることもできる。
3			
4	○半回転(180°)より大きい角度をはかったり、対頂角の大きさや求め方を理解したりする。	・180°より大きい角度のはかり方を考える。 ・対頂角の大きさを比べる。	
5	○三角定規の角の大きさについて理解するとともに、三角定規を組み合わせているいろいろな角度をつくることができる。	・三角定規のそれぞれの角の大きさを調べる。 ・三角定規を組み合わせて、いろいろな角度をつくる。	
6	○身の回りのいろいろなところから角を見つけて、角の大きさをはかろうとする。	【Hello! Math】 ・身の回りのいろいろな角度をはかる。	・学校の授業以外の場合で、【Hello! Math】の活動に取り組みせてもよい。
3 角のかき方 (P. 67~68) 2時間			
7	○分度器を用いて、角をかきすることができる。	・分度器を用いて角をかき。 ・角のかき方をまとめる。	
8	○1つの辺の長さ、その両端の角の大きさがわかっている三角形をかきすることができる。	・角の大きさがわかっている三角形を作図する。 ・分度器を使った三角形のかき方をまとめる。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	○「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P. 69)で、学習内容をより確かなものにする。		
9	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 70)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ぐっとチャレンジ」(P. 141)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

5 小数【小数のしくみを考えよう】 (上P. 72~86)

6月中旬~6月下旬 [12時間] [11時間]

【単元の目標】

・数の表し方のしくみや数を構成する単位に着目して、小数第三位までの小数の大きさや加法・減法の計算の仕方を考え、それらを理解するとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…小数第三位までの小数のしくみ、小数の加法・減法の計算の仕方を理解し、小数をよんだり、かいたり、小数の加法・減法の計算ができる。

思・判・表…数の表し方のしくみや数を構成する単位に着目し、小数の表し方やしくみ、数の相対的な大きさや計算の仕方などを考え説明している。

態 度…小数とその計算について、数学的に表現・処理したことを振り返り、十進位取り記数法のよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.71)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
単元アプローチ (P.72) 1時間			
1	○整数、小数のしくみを振り返り、小数第二位の表し方を考える。	・立ちばとびの記録をmの単位だけで表す方法を考える。	
1 小数 (P.73~75) 2時間			
2	○0.1 Lより小さいかさの表し方を通して、小数第二位までの数の表し方を理解する。	・0.1より小さい数(かさ)の表し方を考える。 ・1/100の位までの小数の表し方やよみ方を知る。	
3	○小数第三位までの数の表し方を理解する。	・0.01より小さい数(長さ、重さ)の表し方を考える。 ・1/1000の位までの小数の表し方やよみ方を知る。	
2 小数のしくみ (P.76~80) 4時間			
4	○1, 0.1, 0.01, 0.001の相互関係を理解するとともに、小数の加法的なしくみについて考える。	・1, 0.1, 0.01, 0.001の関係を調べる。 ・小数の加法的構造を調べる。	
5	○小数の乗法的なしくみについて考えるとともに、小数の大小比較の仕方を理解する。	・小数の乗法的構造を調べる。 ・数直線を用いて、小数の大小関係を比べる。	
6	○小数を加法的、乗法的構造から多面的にとらえるとともに、身の回りにある小数を探そうとする。	・8.51をいろいろな見方で表す。 【Hello! Math】 ・身の回りにある小数を探す。	・学校の授業以外の場で、 【Hello! Math】 の活動に取り組みさせてもよい。
7	○位の変わり方に着目し、小数を10倍した数や1/10にした数について考える。	・0.48を10倍した数や1/10にした数について調べる。	
3 小数のたし算とひき算 (P.81~84) 4時間			
8	○小数(第二位まで)のたし算の仕方を考え、筆算で計算ができる。	・ $1.82+3.45$ の計算の仕方を考える。 ・小数どうしのたし算(小数第二位)の筆算による仕方をまとめる。	
9	○答えの末位の0を処理したり、末位に0があると考えると計算したりすることができる。	・小数どうしのたし算(小数第二位)の派生型の筆算による仕方を考える。 例 $6.56+0.84$, $4.17+5.2$	
10	○小数(第二位まで)のひき算の仕方を考え、筆算で計算ができる。	・ $3.45-1.82$ の計算の仕方を考える。 ・小数どうしのひき算(小数第二位)の筆算による仕方をまとめる。	
11	○答えの末位の0を処理したり、末位に0があると考えると計算したりすることができる。	・小数どうしのひき算(小数第二位)の派生型の筆算による仕方を考える。 例 $3.92-1.52$, $8-3.54$	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	○「わかっているかな?」「まちがしやすい問題」(P.85)で、学習内容をより確かなものにする。		

12	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.86)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ぐっとチャレンジ」(P.142)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

6 およその数〔およその数で表そう〕 (上P.88~97)

7月上旬~7月中旬 [8時間] [6時間]

【単元の目標】

- 概数が用いられる場面を理解し、四捨五入して数を概数で表す技能を身につけ、目的にあった数の処理の仕方を考えるとともに、概数を用いる必要性やよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…四捨五入による概数の表し方や「以上・以下・未満」の意味を理解し、四捨五入して数を概数で表すことができる。

思・判・表…日常の事象における場面に着目し、目的に応じた概数の表し方を考え、状況を判断している。

態 度…概数が用いられる場面を知り、概数を用いるよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.87)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
単元アプローチ (P.88~89) 1時間			
1	○およその数で表す必要性を感じる。	・都道府県別の小学4年生の数の表し方を考える。	・P.88の内容に取り組み、今後の学習への見通しを持たせておく。
1 がい数 (P.89~94) 4時間			
2	○およその数の表し方について考えるとともに、「概数」の意味と「約」を用いて表すことを理解する。	・およその数の表し方について考える。 ・「概数」の意味と「約」を用いて表すことを知る。	
3	○四捨五入の意味と使い方を理解し、四捨五入して概数を求めることができる。	・四捨五入して概数に表す方法を調べる。 ・「四捨五入」の意味を理解する。	
4	○上から○桁の概数にする四捨五入の表現方法を理解する。	・「上から○けた」という概数の表し方を知る。	
5	○概数で表された整数の範囲がわかり、最大値・最小値について考えるとともに、「以上・以下・未満」の意味を知り、これらを用いて数の範囲を表すことができる。	・四捨五入して、ある概数になるときの数の範囲について調べる。 ・「以上・以下・未満」の意味を知り、これらを用いて数の範囲を表す。	
2 がい数の使用 (P.95~96) 2時間 (1時間)			
6	○概数の求め方の理解を深め、それを棒グラフに表すことができる。	・概数を利用した棒グラフのかき方を調べる。	
7	○日常生活の中で使われている概数を見つけようとする。	【Hello! Math】 ・身の回りで使われている概数を探す。	・調べ活動に取り組み、見つけたものをノートなどにまとめさせる。
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
8	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.97)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

7 そろばん〔そろばんで計算しよう〕 (上P. 98~100)

7月中旬〔2時間〕

【単元の目標】

- ・そろばんのしくみに着目し、そろばんを用いた整数や小数の加法・減法の計算の仕方を考え、それらを理解するとともに、そろばんの構造を十進位取り記数法のしくみと関連づけられるよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…そろばんのしくみやそろばんを用いた加法・減法の計算の仕方を理解し、そろばんを用いて整数や小数を表したり、加法・減法の計算をしたりすることができる。

思・判・表…そろばんのしくみに着目し、整数や小数の加法・減法の計算の仕方を考えている。

態 度…そろばんによる簡単な計算の仕方を振り返り、そろばんのよさに気づき、大きい数や小数の計算の仕方を考えようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1 数の表し方 (P. 98~99) 1時間			
1	○そろばんを使った整数(大きい数)や小数の表し方を理解する。	・そろばんを使った整数(大きい数)や小数の表し方を知る。	
2 たし算とひき算 (P. 100) 1時間			
2	○そろばんを使って、億や兆の単位で示された加減や、小数の加減の計算ができる。	・そろばんを使って、億や兆の単位で示された加減や、小数の加減計算を行う。	

* ふくしゅう (上P. 101~102) 配当時数なし

※	「ふくしゅう」(P. 101~102)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	--

8 四角形〔いろいろな四角形を調べよう〕 (上P. 104~123)

9月上旬~9月下旬〔15時間〕 **〔13時間〕**

【単元の目標】

- ・直線の垂直や平行の関係、台形、平行四辺形、ひし形の意味や性質を理解し、辺の位置関係や構成要素に着目して、それらの特徴をとらえるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…直線の垂直や平行の関係の意味や性質、台形、平行四辺形、ひし形の意味や性質を理解し、コンパスや三角定規を使って、垂直や平行な直線、台形、平行四辺形、ひし形をかくことができる。

思・判・表…辺の位置関係や構成要素に着目し、直線の垂直や平行の関係を見だし、四角形をその違いに気づき分類し、特徴をとらえている。

態 度…身の回りから、直線の垂直や平行の関係、台形、平行四辺形、ひし形の形を見つけ考察しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 103)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱います。		
単元アプローチ (P. 104) 1時間 (0時間)			
1	○2本の直線の交わり方を調べようとする。	・地図や写真を使って2本の直線の交わり方を調べる。	・P. 104の内容に取り組み、道の交わり方について気づいたことをノートにまとめさせ、今後の学習への見通しを持たせておく。

1 直線の交わり方 (P. 105~107) 2時間			
2	○2本の直線の交わり方について考え、垂直の意味を理解するとともに、垂直の関係を弁別することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2本の直線の交わり方を調べる。 ・垂直の意味を知る。 ・垂直の意味を理解し、2本の直線が垂直かどうかを弁別する。 	
3	○三角定規を使って、垂直な直線をかきことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・垂直な直線をかき。 ・垂直な直線のかき方をまとめる。 	
2 直線の並び方 (P. 108~112) 4時間			
4	○2本の直線の並び方について考え、平行の意味を理解するとともに、平行の関係を弁別することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2本の直線の並び方を調べる。 ・平行の意味を知る。 ・平行の意味を理解し、2本の直線が平行かどうかを弁別する。 	
5	○幅はどこも等しいという平行な直線の性質や、平行な直線に1本の直線が交わる時、同じ側にできる角(同位角)は等しいことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・平行な直線の幅を調べる。 ・平行な直線と交わる直線でできる角度を調べる。 	
6	○三角定規を使って、平行な直線をかきことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・平行な直線をかき。 ・平行な直線のかき方をまとめる。 	
7	○方眼を使って、垂直や平行な直線をかきことができる。 ○身の回りから、垂直・平行になっているものを探そうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・方眼を使って、垂直や平行な直線をかき。 <p>【Hello! Math】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから、垂直・平行になっているものを探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業以外の場合、【Hello! Math】の活動に取り組みさせてもよい。
3 いろいろな四角形 (P. 113~118) 5時間			
8	○台形、平行四辺形の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・P. 157の紙を重ねていろいろな四角形をつくる。 ・台形と平行四辺形の意味を知る。 	
9	○辺や角を調べて、平行四辺形の性質を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形の辺の長さや角の大きさを調べる。 	
10	○定義や性質を用いて、平行四辺形を作図することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形の作図の仕方を考える。 	
11	○ひし形の意味や性質を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひし形の意味を知る。 ・ひし形の性質を調べる。 	
12	○定義や性質を用いて、ひし形を作図することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひし形の作図の仕方を考える。 	
4 対角線 (P. 119~121) 2時間			
13	○対角線の意味を知り、四角形の対角線の交わり方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・対角線の意味を知る。 ・いろいろな四角形の対角線に関する性質について調べる。 	

14	○身の回りから、四角形の形をしたものを見つけようしたり、同じ形や大きさの四角形を敷きつめたりする活動を通して、図形の美しさ、不思議さを感じ取ったりする。	【Hello! Math】 ・身の回りから、四角形の形をしたものを探す。 ・平行四辺形や台形、四角形を使って敷きつめ模様づくりをする。	・学校の授業以外の場合で、身の回りの四角形を探す活動に取り組みせてもよい。
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	○「わかっているかな?」「まちがしやすい問題」(P.122)で、学習内容をより確かなものにする。		
15	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.123)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ぐっとチャレンジ」(P.143)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

● **活用〔カードを使った2けたのひき算〕** (上P.124~126) 9月下旬 [1時間]

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場合での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○1から9までの数のカード2枚を使って2けたの整数を2つ作り、最初に選んだ2つの数の差と、そこからつくられた2つの2けたの数の差の関係について説明することができる。	・2枚のカードを選んでつくった2けたどうしのひき算の答えの中にあるきまりを見つける。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場合での学習としてもよい。

9 わり算(2) [わり算の筆算のしかたをさらに考えよう] (下P.6~25)

10月上旬~10月中旬 [15時間] [13時間]

【単元の目標】

- ・除数が2位数で、被除数が2, 3位数の計算の仕方を理解し、筆算で計算する技能を身につけ、数量の関係に着目して、計算の仕方を考え説明するとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…(2, 3位数) ÷ (2位数)の計算の仕方を理解し、それらの計算が筆算でできたり、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べるときに割合を用いる場合があることについて理解したりしている。
- 思・判・表**…既習の除法の計算の仕方をもとに、(2, 3位数) ÷ (2位数)の計算の仕方を図や式、ことばなどで考え説明したり、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係の比べ方を考え説明したりしている。
- 態度**…これまでに学習した基本的な計算を活用し、よりよい方法で解決することのよさを感じている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.5)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
単元アプローチ (P.6) 1時間 (0時間)			
1	○既習の除法の計算の答えを求めることができる。	・既習の除法の計算を振り返る。	・P.6の内容に取り組み、これまでに学習したわり算について振り返らせ、今後の学習への見通しを持たせておく。
1 何十でわる計算 (P.7~8) 1時間			
2	○何十でわる計算の仕方を考え、その計算ができる。	・何十でわる計算(あまりなし)の仕方を考える。 例 80 ÷ 20, 120 ÷ 40 ・何十でわる計算(あまりあり)の仕方を考える。 例 140 ÷ 30 ・「わる数 × 商 + あまり = わられる数」の関係を確かめる。	
2 2けたの数でわる計算(1) (P.9~13) 4時間			
3	○概算の考えを生かして、商の見当をつけるとともに、仮商修正のない(2位数) ÷ (2位数)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・65 ÷ 21 (仮商修正なし)の計算の仕方を考え、筆算による仕方をまとめる。	
4	○仮商修正のある(2位数) ÷ (2位数)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・89 ÷ 28 (仮商修正1回)の筆算の仕方を考える。 ・71 ÷ 12 (仮商修正2回)の筆算の仕方を考える。	
5	○仮商修正のある(3位数) ÷ (2位数)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・143 ÷ 23 (仮商修正あり)の筆算の仕方を考える。 ・436 ÷ 48 (仮商9)の筆算の仕方を考える。	
6	○(2位数) ÷ (2位数)(四捨五入による仮商修正)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・73 ÷ 17 (四捨五入による仮商修正)の筆算の仕方を考える。	
3 2けたの数でわる計算(2) (P.14~16) 2時間			
7	○(3位数) ÷ (2位数) = (2位数)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・368 ÷ 24 (商が2位数)の筆算の仕方を考える。	

8	○(3位数)÷(2位数)=(2位数)で、商の一の位が0になる場合の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・(3位数)÷(2位数)=(2位数)[商の一の位が0の場合]の筆算の仕方を考える。 例 860÷43, 743÷24	
4 わり算のきまり (P.17~19) 2時間			
9	○被除数、除数に同じ数をかけたり、わったりして計算しても、商が変わらないというわり算の性質を理解する。	・商が等しいわり算の式を見て、除法について成り立つ性質について調べる。	
10	○末尾に0がある数の除法の簡単な筆算の仕方を既習の除法の計算の仕方をもとに考える。	・4800÷600, 2500÷200の筆算の仕方を考え、簡単な方法を説明する。	
5 倍の計算 (P.20~21) 2時間			
11	○倍関係の場面について、図をもとにして数量の関係性を式に表して考える。	・ある数が「もとにする量」の何倍かを求める。	
12	○倍関係の場面について、図をもとにして数量の関係を式に表すことができる。	・何倍かにあたる量と倍を表す数から「もとにする量」を求める。	
6 かんたんな割合 (P.22~24) 2時間			
13 ・ 14	○簡単な場合について、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べるときに、倍(割合)を用いることがあることを理解する。	・長さの異なる2種類のゴムについて、どちらがよくのびるかを考える。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
15	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.25)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ぐっとチャレンジ」(P.146)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

● **どんな計算になるか考えよう** (下P.26) 10月下旬 [1時間]

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○乗法・除法を使って問題を解決することを通して、演算を決定する力を伸ばす	・問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて、解決する。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

10 式と計算 [計算のきまりを調べよう] (下P.28~37)

10月下旬~11月上旬 [8時間] **[7時間]**

【単元の目標】

・四則の混合した式や()を使った式の計算の順序やきまりを理解し、数量の関係に着目して、具体的な場面や思考の道筋を考えるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…四則の混合した式の計算や()を使った式の計算の順序、計算のきまり(交換法則、結合法則、分配法則)を理解し、その計算や計算の順序、計算のきまりを用いて、計算方法をくふうすることができる。
- 思・判・表**…数量の関係に着目し、四則の混合した式や()を使った式に表された問題場面をとらえ、四則の混合した式や()を使った式の意味、計算の仕方を考え、説明している。
- 態 度**…四則の混合した式や()を使った式、計算のきまりを使って、計算方法をくふうすることのよさを感じている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.27)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 ()を使った式 (P.28~30) 2時間			
1	○()内先行の計算の順序を理解し、問題の場面を式に表し、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2段階構造の問題[加減]を1つの式に表す方法を考える。 例 $500 - (150 + 80)$ ・()のある式の計算順序をまとめる。 	
2	○四則混合の()を使った式の計算順序を理解し、加減法と乗法、加減法と除法の場面を、()を使って1つの式に表し、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・2段階構造の問題[加減乗除]を1つの式に表す方法を考える。 例 $120 \times (5 + 3)$ 	
2 +, -, ×, ÷のまじった式 (P.31~32) 2時間			
3	○乗除先行の計算順序を理解し、四則混合の2段階構造の問題場面を1つの式に表そうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・加減と乗除の2段階構造の問題を1つの式に表し、計算順序を考える。 例 $500 - (120 \times 3)$ $85 + (600 \div 2)$ ・加減乗除のまじった式の計算順序をまとめる。 	
4	○計算の順序を理解し、正しく計算できるとともに、四則混合の3段階までの問題場面を1つの式に表し、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・四則混合の3段階構造の式の計算順序を考える。 例 $8 \times 6 - 4 \div 2$ $8 \times (6 - 4) \div 2$ $8 \times (6 - 4 \div 2)$ ・計算の順序をまとめる。 	
3 計算のきまり (P.33~34) 2時間			
5	○整数の計算について分配法則が成り立つことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の加減、乗法について分配法則が成り立つことを確かめる。 	
6	○整数の計算について乗法の交換、結合法則を用いると計算が簡単に行える場合があることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の加減、乗法について交換法則・結合法則が成り立つことを確かめる。 ・小数についても加法の交換法則・結合法則が成り立つことを確かめる。 	
4 式のみ方 (P.35) 1時間			
7	○ドットの数の求め方を既習の式表示をもとに考えたり、図を見て考え方をよみとったりして、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ドットの数をくふうして、1つの式に表す。 	

学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	○「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P.36)で、学習内容をより確かなものにする。		
8	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.37)に取り組む。	・答え合わせまで行く。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ぐっとチャレンジ」(P.147)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

11 面積〔広さを表そう〕 (下P.40~60)

11月上旬~12月上旬 [14時間] [12時間]

【単元の目標】

- ・面積の単位と測定の意味を知り、長方形や正方形の求積公式を理解し、面積の単位や図形を構成する要素に着目し、面積を単位のいくつ分で数値化してとらえるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…面積の単位 (cm^2 , m^2 , km^2 , a, ha) の意味やその相互関係、長方形、正方形の面積が公式によって計算で求められることを理解し、求積公式を利用し、いろいろな形の面積を求めることができる。

思・判・表…面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えているとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。

態 度…面積を数値化して表すことよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.39)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
単元アプローチ (P.40) 1時間 (0時間)			
1	○広さを比べる方法を考えようとする。	・花壇の広さを比べる方法を考える。	・P.40の内容に取り組み、花壇の広さの比較方法について考えたことをノートにまとめさせ、今後の学習への見通しを持たせておく。
1 広さの表し方 (P.41~43) 2時間			
2	○単位のいくつ分で広さを比べる方法を考える。	・じんとりゲームをして、広さをいろいろな方法で比べる。	
3	○面積の用語を知り、広さも共通な単位で表せることを理解し、面積の単位「 cm^2 」を知り、正しく使うことができる。	・長方形と正方形の広さを比べる。 ・面積の意味、面積を表す単位「 cm^2 」を知る。	
2 長方形と正方形の面積 (P.44~47) 2時間			
4	○長方形、正方形の面積の求め方を考え、公式の意味を理解する。	・長方形、正方形の面積を計算で求める方法を考える。 ・長方形、正方形の面積を求める公式をまとめる。	
5	○長方形の辺の長さとの面積の関係を調べ、理解する。	・求積公式を使って、長方形の辺の長さを求める。 ・長方形の辺の長さとの面積の関係を調べる。	
3 面積の求め方のくふう (P.48~51) 1時間			
6	○複合図形の面積の求め方を考え、説明することができる。	・複合図形の面積の求め方を考える。 ・面積の求め方を発表し、話し合う。	
※	「よみとろう あらわそう」(P.158)で、複合図形の面積の求め方をさまざまな図や式、ことばを使って表す。		

4 大きな面積の単位 (P. 52~59) 7時間			
7	○面積の単位「 m^2 」を知り、面積を求めることができる。	・面積を表す単位「 m^2 」を知る。	
8	○ m^2 と cm^2 の単位の相互関係を調べ、 $1m^2=10000cm^2$ であることを理解するとともに、辺の長さの単位が異なる長方形の面積を求めることができる。	・ $1m^2$ が何 cm^2 かを考える。 ・ $1m^2=10000cm^2$ ・辺の長さが cm と m で表された長方形の面積を求める。	
9	○ $1m^2$ の量感を体感的に理解する。	【Hello! Math】 ・新聞紙で $1m^2$ をつくる。	・学校の授業以外で、【Hello! Math】の活動に取り組みさせてもよい。
10	○面積の単位「 km^2 」を知り、 km^2 と m^2 の相互関係を理解する。	・面積を表す単位「 km^2 」を知る。	
11	○面積の単位「 a 」「 ha 」を理解し、面積を表すことができるとともに、 a や ha と m^2 の単位の相互関係を理解する。	・面積を表す単位「 a 」を知る。 ・ $1a=100m^2$ ・面積を表す単位「 ha 」を知る。 ・ $1ha=10000m^2$	
12	○面積の単位とそのしくみを理解する。	・面積の単位とそのしくみを調べる。 ・長さの単位の関係とのちがいを話し合う。	
13	○身の回りのものの面積に関心を持ち、面積を求めようとする。	【Hello! Math】 ・身の回りにあるものの面積を調べる。	・学校の授業以外で、【Hello! Math】の活動に取り組みさせてもよい。
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
14	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 60)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ぐっとチャレンジ」(P. 148)は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

12 変わり方【どのように変わるかな】 (下P. 62~71)

12月上旬 [4時間] 【3時間】

【単元の目標】

- ・ともなって変わる2つの数量の関係を表や□、△などを用いた式に表す仕方を理解し、問題場面の数量の關係に着目し、数量の關係を簡潔に表し、式をよみとるとともに、式のよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…ともなって変わる2つの数量の関係を表や□、△などを用いた式に表す仕方を理解し、□、△などを用いた式に表すことができる。
- 思・判・表**…問題場面の数量の關係に着目し、ともなって変わる2つの数量の關係を表す方法を考え、關係を整理して、きまりを見いだしている。
- 態度**…数量の關係を表す式について、式や公式のよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○和一定の2つの数量の関係を表にまとめ、表を観察して、2つの数量の対応のきまりや変わり方を調べるとともに、2つの数量の関係を□、△を使った式に表し、当てはまる数を見つけることができる。	・まわりの長さが20cmの長方形や正方形の縦と横の長さを調べ、ともなって変わる2量の関係（和一定）を、表や□、△などを使った式に表す。	
2	○差一定の2つの数量の関係を表にまとめ、表を観察して、2つの数量の対応のきまりや変わり方を調べるとともに、2つの数量の関係を□、△を使った式に表し、当てはまる数を見つけることができる。	・正三角形を横に並べたときの正三角形の数とまわりの長さを調べ、ともなって変わる2量の関係（差一定）を、表や□、△などを使った式に表す。	
3	○変化する値が一定の2つの数量の関係を表にまとめ、表を観察して、2つの数量の対応のきまりや変わり方を調べるとともに、2つの数量の関係を□、△を使った式に表し、当てはまる数を見つけることができる。	・正方形を階段のように並べたときの段の数とまわりの長さを調べ、ともなって変わる2量の関係（一方を1ずつ増やすと他方も決まった数になる）を、表や□、△などを使った式に表す。	
学習のまとめ 1時間（0時間）			
※	○「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」(P.70)で、学習内容をより確かなものにする。		
4	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.71)に取り組む。	・答え合わせまで行く。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

13 計算の見積もり【がい数で計算しよう】（下P.72~77）

12月中旬【4時間】

【単元の目標】

- ・目的に応じた概算の仕方を理解し、計算の結果を見積もる技能を身につけ、目的にあった概数の処理の仕方を考えるとともに、概数を用いると物事の判断や処理が簡単になるなどのよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…目的に応じて和・差・積・商を概数で見積もるために、概算の仕方を理解し、計算結果をおよその大きさでとることができる。

思・判・表…場面をとらえて判断し、目的にあった概数の処理の仕方を考えている。

態 度…概数を用いると物事の判断や処理が簡単になるなどのよさに気づき、目的に応じて計算の結果を見積もり、生活や学習の場面で用いようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○和や差の見積もりの仕方を理解する。	・水族館の入場者数について、概数を用いて和・差の見積もりをする。	
2	○積の見積もりの仕方を理解する。	・水族館の入館料について、概数を用いて積の見積もりをする。	

3	○商の見積もりの仕方を理解する。	・水族館へ行くバス代について、概数を用いて商の見積もりをする。	
4	○身近な生活場面で、目的に応じた計算の見積もりをしようとする。	【Hello! Math】 ・目的にあった方法で、買い物の代金を見積もる。	・学校の授業以外の場合で、【Hello! Math】の活動に取り組みさせてもよい。

*** ふくしゅう (下P. 79~80) 配当時数なし**

※ 「ふくしゅう」(P. 79~80) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。

14 分数 [分数のしくみを考えよう] (下P. 82~93)

1月上旬~1月中旬 [10時間] **[8時間]**

【単元の目標】

・分数の意味や表し方、同分母分数の加減の計算の仕方を理解し、数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりするとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…分数の意味や表し方、同分母分数の加減の計算の仕方を理解し、数直線を使って、大きさの等しい分数を見つけたり、同分母分数の加減の計算をしたりすることができる。

思・判・表…数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、分数の表し方や計算の仕方を、単位分数をもとにしたり、図や式と関連させたりして考えている。

態 度…身の回りの数量を分数で表すことに関心を持ち、分数の意味や表し方について考え、生活や今後の学習に活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場合での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 81) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	いろいろな分数 (P. 82~87) 5時間 (4時間)		
1	○単元アプローチ (P. 82) 既習の分数の学習を振り返る。		
2	○単位分数や数直線をもとにして、1より大きい分数の大きさと表し方について考える。	・1より大きい分数の表し方を考える。	・P. 82 の内容に取り組み、これまでに学習した分数について振り返る。今後の学習への見通しを持たせておくことで、 <u>1時間扱いとする。</u>
3	○真分数と仮分数、帯分数の意味を理解する。	・数直線を使って、分数を分類する。 ・真分数や仮分数、帯分数の意味を知る。	
4	○帯分数と仮分数の相互関係について理解する。	・仮分数と帯分数の相互関係を考える。 ・整数と同値の仮分数の関係を調べる。	
5	○分数の大小比較ができる。	・仮分数と帯分数の大小比較をする。	
2	分数の大きさ (P. 88~89) 1時間		
6	○分数の大小、相等関係について理解する。	・大きさの等しい分数を見つける。 ・数直線上に表された分数の大きさを比べる。	

3 分数のたし算とひき算 (P. 90~92) 3時間			
7	○和が仮分数になる場合の同分母分数(真分数)のたし算や同分母分数(仮分数-真分数)のひき算の仕方を考え、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・(真分数)+(真分数)=(仮分数)の計算の仕方を考える。 例 $4/5+3/5$ ・(仮分数)-(真分数)=(真分数)の計算の仕方を考える。 例 $7/5-3/5$ 	
8	○帯分数を含んだ同分母分数のたし算の仕方を考え、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・帯分数を含んだ同分母分数のたし算の仕方を考える。 例 $2\frac{1}{5}+1\frac{3}{5}$, $2\frac{3}{7}+6/7$ 	
9	○帯分数を含んだ同分母分数のひき算の仕方を考え、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・帯分数を含んだ同分母分数のひき算の仕方を考える。 例 $2\frac{4}{5}-1\frac{1}{5}$, $1\frac{2}{7}-3/7$ 	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
10	○学習内容の理解を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「たしかめポイント」(P. 93)に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。

15 小数のかけ算とわり算 [小数のかけ算とわり算のしかたを考えよう] (下P. 96~114)

1月下旬~2月中旬 [13時間] [12時間]

【単元の目標】

- ・乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算の意味を理解し、それらを計算する技能を身につけ、数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えるとともに、考えた過程を振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…(小数)×(整数), (小数)÷(整数), (整数)÷(整数)で商が小数になる場合の計算の意味やその仕方を理解し、計算ができる。

思・判・表…数を構成する単位に着目し、(整数)×(整数), (整数)÷(整数)の計算の仕方をもとに、(小数)×(整数), (小数)÷(整数)の計算の仕方を考えている。

態度…(小数)×(整数), (小数)÷(整数)の計算の仕方を、既習の整数の乗除計算と関連づけて考え、活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P. 95)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
単元アプローチ (P. 96) 1時間			
1	○既習の計算を、単位に着目して考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の計算を振り返る。 	
1 小数に整数をかける計算 (P. 97~102) 3時間			
2	○(小数)×(整数)の計算の仕方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・0.2×6の計算の仕方を考える。 	
※	「よみとろう あらわそう」(P. 159, 160)で、小数と整数の乗法のテープ数直線図のよみ方を確認し、対比する。		
※	「つなげる算数」(P. 99)で、整数のかけ算のきまりが小数でも適用できるか、統合的な視点で考察する。		
3	○小数(小数第一位)に整数(1位数)をかける筆算の仕方を考え、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・1.8×3の計算の仕方を考える。 ・(小数)×(整数)の筆算による仕方をまとめる。 	
※	「よみとろう あらわそう」(P. 159)で、小数と整数の乗法のテープ数直線図のよみ方を確認し、対比する。		

4	○小数(小数第一, 二位)に整数(1, 2位数)をかける筆算の仕方を考え, その計算ができる。	・(小数)×(整数)の派生型の筆算による仕方を考える。 例 1.6×42 , 4.8×15 , 1.45×3	
2 小数を整数でわる計算 (P. 103~107) 3時間			
5	○(小数)÷(整数)の計算の仕方を考える。	・ $1.2 \div 3$ の計算の仕方を考える。	
※	「よみとろう あらわそう」(P. 159, 160)で, 小数と整数の除法のテープ数直線図のよみ方を確認し, 対比する。		
6	○小数(小数第一位)を整数(1位数)でわる筆算の仕方を考え, その計算ができる。	・ $7.2 \div 4$ の計算の仕方を考える。 ・(小数)÷(整数)の筆算による仕方をまとめる。	
7	○小数(小数第一, 二位)を整数(1, 2位数)でわる筆算の仕方を考え, その計算ができる。	・(小数)÷(整数)の派生型の筆算による仕方を考える。 例 $39.6 \div 11$ ・ $6.3 \div 7$ (商が1より小さい場合)の筆算による仕方を考える。 ・ $7.56 \div 6$ の筆算による仕方を考える。	
3 いろいろなわり算 (P. 108~110) 3時間			
8	○小数を整数でわる計算で, あまりのある場合の計算の仕方を考え, その計算ができる。	・ $19.6 \div 3$ (あまりのある場合)の筆算による仕方を考える。	
9	○小数や整数を整数でわる計算で, わり進む場合の筆算の仕方を理解し, その計算ができる。	・(小・整数)÷(整数)の筆算(わり進む場合)による仕方を考える。 例 $5.4 \div 4$	
10	○整数を整数でわる計算で, 四捨五入による商の処理がある場合について考え, 答えを求めることができる。	・ $5 \div 3$ の計算で, 商を四捨五入して求める場合の仕方を考える。	
4 何倍かを表す小数 (P. 111~112) 2時間			
11	○小数倍の意味と求め方を理解する。	・倍が小数でも表されることを知る。	
12	○もとにする量が変わった場合の小数倍の関係の変化について理解する。	・小数倍の関係について, もとにする量を変えて考える。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
※	○「わかっているかな?」「まちがいがやすい問題」(P. 113)は, 学習内容をより確かなものにする。		
13	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P. 114)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際, 児童がわからなかった問題は, 個別に支援する。

16 直方体と立方体 [いろいろな箱の形を調べよう] (下P. 116~129)

2月中旬~3月上旬 [10時間] **[9時間]**

【単元の目標】

- 直方体, 立方体の意味や性質, 平面上や空間にあるものの位置の表し方を理解し, 立体図形の構成要素や位置関係に着目して, 直方体や立方体の特徴や性質をとらえるとともに, 考えた過程を振り返り, 学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…直方体、立方体の意味や性質を理解し、直方体や立方体の見取図や展開図をかいたり、平面や空間の位置を表したりすることができる。

思・判・表…構成要素や位置関係に着目して、直方体や立方体の特徴や性質を考えている。

態 度…直方体や立方体がどのような性質を活用しているかを考え、そのよさに気づいている。

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
※	「次の学習のために」(P.115) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 直方体と立方体 (P.116~119) 2時間			
1	○単元アプローチ (P.116) ・形あてゲームをする。		
	○直方体、立方体の意味を理解する。	・箱の形について調べ、なかま分けをする。 ・直方体、立方体の意味を知る。	
2	○構成要素について考察し、直方体、立方体の特徴や性質を理解する。	・直方体、立方体の頂点、辺、面の数や形について調べる。 ・平面の意味を知る。	
2 見取図と展開図 (P.120~122) 2時間			
3	○直方体や立方体の見取図をかきことができる。	・直方体や立方体の見取図をかき、それらの箱をつくる。	・可能であれば、デジタルコンテンツを活用し、展開図の意味を確認させる。
4	○直方体、立方体の展開図について考える。 ○直方体、立方体の展開図をかきことができる。		
3 辺や面の垂直と平行 (P.123~125) 3時間			
5	○直方体の面と面の垂直・平行の関係について理解し、説明することができる。	・直方体の面と面の垂直・平行の関係を調べる。	
6	○直方体の辺と辺の垂直・平行の関係について理解し、説明することができる。	・直方体の辺と辺の垂直・平行の関係を調べる。	
7	○直方体の面と辺の垂直・平行の関係について理解する。 ○身の回りで垂直・平行になっている辺や面を探そうとする。	・直方体の面と辺の垂直・平行の関係を調べる。 【Hello! Math】 ・教室の中で、垂直と平行の関係になっている辺や面を探す。	・学校の授業以外の場で、 【Hello! Math】 の活動に取り組みさせてもよい。
4 位置の表し方 (P.126~128) 2時間			
8	○平面上にあるものの位置を数を用いて表すことができる。	・絵地図に示された建物の位置の表し方を考える。	
9	○空間にあるものの位置を数を用いて表すことができる。	・絵地図に示された展望台の位置の表し方を考える。	
学習のまとめ 1時間 (0時間)			
10	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめポイント」(P.129)に取り組む。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。
※	○「ぐっとチャレンジ」(P.149) は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

● 活用〔おたん生日カード〕 (下P. 130～131) 3月上旬〔1時間〕

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○ポップアップカードを作成するのに、平面と立体を関連づけて考える。	・ポップアップカードを作成する。	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

● 算数アドベンチャー〔ふしぎなかけ算〕 (下P. 132～133) 3月上旬〔1時間〕

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1	○十の位の数が同じで、一の位の数の和が10になるかけ算の計算の仕方を、面積図と関係づけて説明する。	・十の位の数が同じで、一の位の数の和が10になるかけ算の特別な方法を考える。 例：15×15 16×14, 27×23	・子どもの実態によっては、学校の授業以外の場での学習としてもよい。

● 4年のまとめ (下P. 134～136) 3月上旬〔3時間〕 **【0時間】**

時	目 標	学 習 活 動	学校の授業以外の場での学習が可能であると 考えられる学習活動や指導上の留意事項
1 ～ 3	○4年の学習内容についての理解を確かなものにする。	・4年の学習内容を確認する。	・答え合わせまで行う。その際、児童がわからなかった問題は、個別に支援する。